

平成28年度別府市学力向上支援教員等活用事業報告

別府市教育委員会

別府市教育委員会では、児童生徒の学力向上のための施策の一つとして、大分県教育委員会が推進する学力向上対策支援事業に基づき、学力向上支援教員を小学校に4名（国語・算数各2名）、中学校に2名（国語・数学各1名）、習熟度別指導推進教員を小学校に3名、中学校に2名配置（いずれも算数・数学）し、児童生徒の学力向上のための効果的な方策を探ってきました。

本報告書は、平成28年度の実績を公表することによって、市内全小・中学校における学力向上の取組の参考にするとともに、家庭・地域と一体となった学力向上の機運を高めることを目的として作成したものです。

平成28年度別府市学力向上対策概要

- 別府市学力調査（1月）の実施
- 問題データベースの活用
- 1人1授業公開の実施
- 別府市教育実践研究発表事業の実施
- 「家庭学習の手引き」の配付
- 市統一学校公開旬間の実施
- 小中連携における共通実践
- 学力向上支援教員の活用
- 習熟度別指導推進教員の活用

平成28年度別府市学力向上支援教員活用事業

1 事業の目的

全国学力定着状況調査・大分県学力定着状況調査の結果を踏まえ、配置校における活用型学力の向上対策を推進するとともに、その対策を市内学校に周知することで、市内の活用型学力の向上に資する。

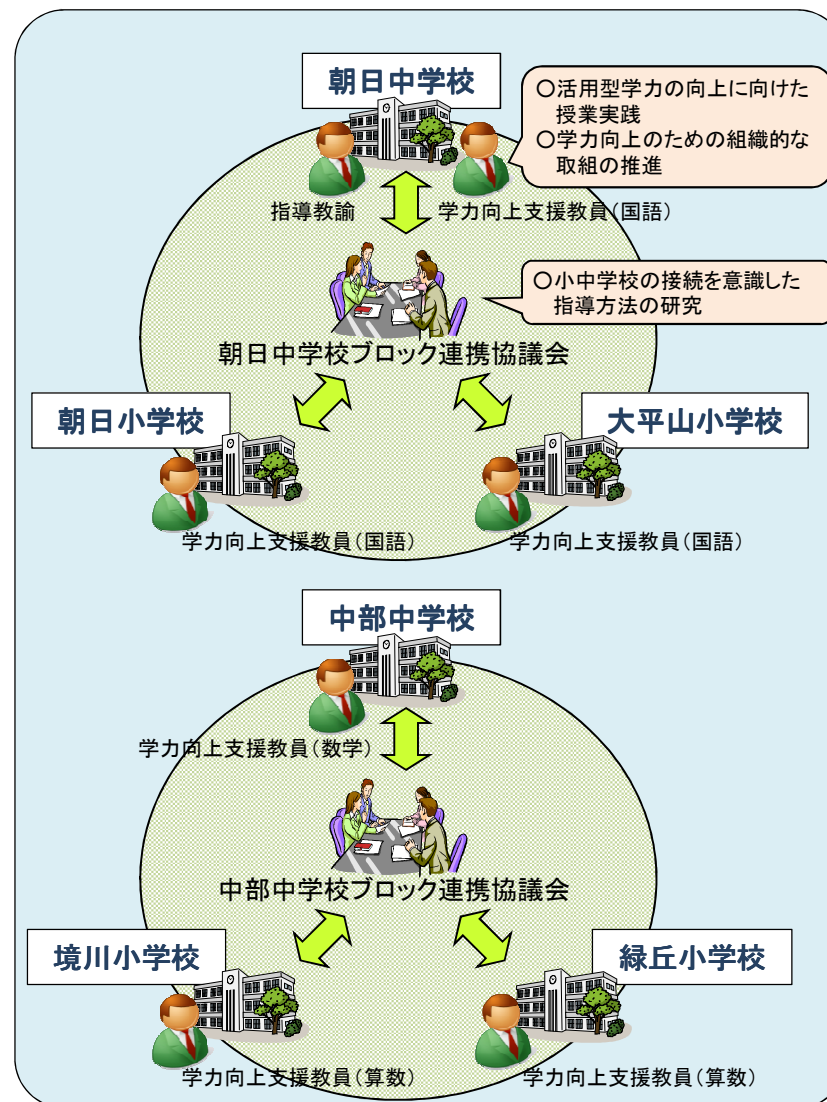
2 学力向上支援教員の取組

配置校において活用型学力の向上に向けた取り組みを実践するとともに、中学校ブロック連携協議会を開催して学力調査結果の分析をもとに別府市で取り組むべき対策を協議し、公開授業等を通して発信する。

- ・自校対象公開授業 1回
- ・中学校ブロック内対象公開授業 1回
- ・全市対象公開授業 1回

3 公開授業における発信内容

- 「ねらいが明確で、質の高い課題と適切なまとめがある授業」の説明
- 客観的なデータ・資料に基く授業構想のあり方
- 言語活動(特に「情報を整理・選択」「読み解く」「まとめる」「論理的に記述する」活動など)の効果的な位置づけ方



4 平成28年度の総括と今後の重点的取組

(1) 総括

6名の学力向上支援教員が配置校において、活用型学力の向上に向けた授業実践を積み重ねてきました。

本年度は、特に、考えを「表現」させることを重視し、「書く」「話す」活動を積極的に取り入れました。

このことにより、子どもたちが自分の考えを整理して「表現」したり、他者の考えと比較して自分の考えを修正したりするなど、思考力・判断力・表現力を働かせる様子が見られるとともに、他者と協働して主体的に学習に取り組む様子が多く見られました。また、「表現(書いたもの、話したこと)」から、教師が子どもたちの思考や判断を捉えることの大切さも実感できました。

児童生徒の「表現」を重視するという授業改善のポイントは、思考力・判断力・表現力を育成するという観点から、他教科の授業改善においてもあてはまる重要なポイントであると考えています。

(2) 今後の重点的取組

「国語科の学習で培った表現力が、他教科の学習の基盤になる」という考え方から離れ、「どの教科においても表現する力を育成しなければならない」という考え方を広めます。

平成28年別府市習熟度別指導推進教員活用事業

1 事業の目的

全国学力定着状況調査・大分県学力定着状況調査の結果を踏まえ、配置校における児童生徒の習熟の程度に応じたきめ細かい指導を推進するとともに、効果的な指導のあり方について市内学校に周知することで、市内の習熟度別指導の推進に資する。

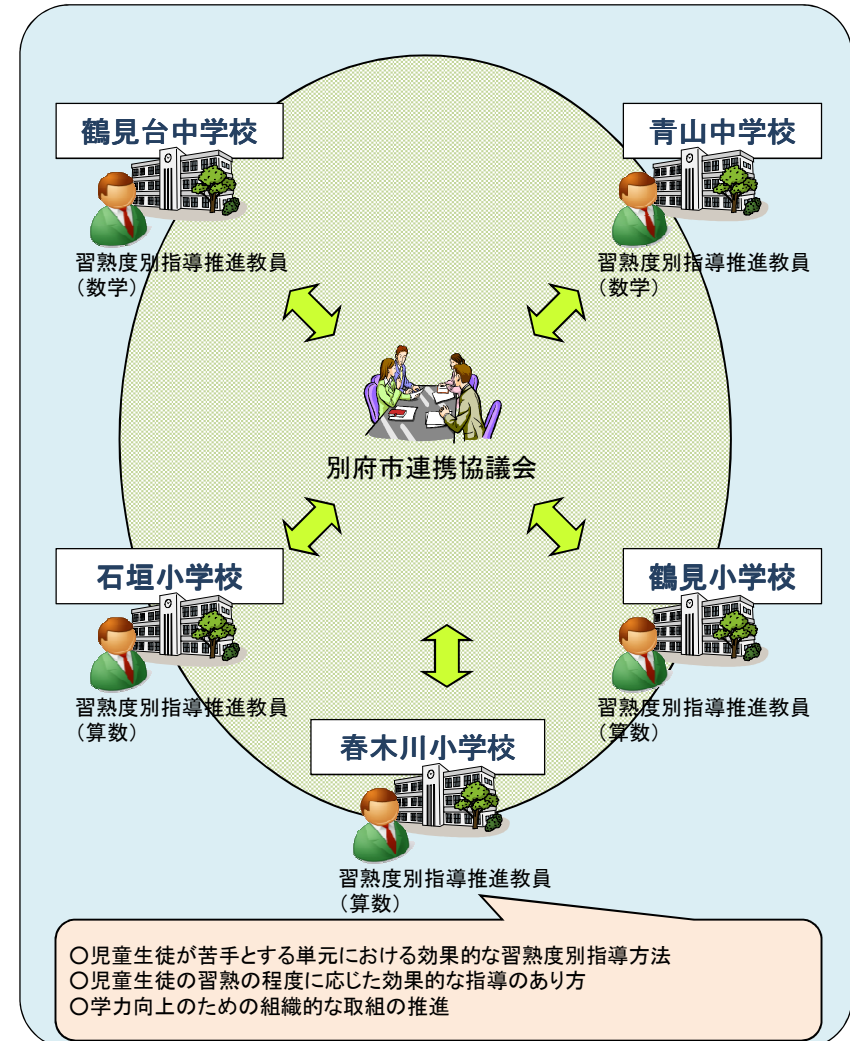
2 習熟度別指導推進教員の取組

配置校において児童生徒の習熟の程度に合わせて効果的な少人数編成や指導方法の工夫を実践するとともに、別府市連携協議会において学力調査結果の分析をもとに別府市で取り組むべき対策を協議し、公開授業等を通して発信する。

- ・自校対象公開授業 1回
- ・習熟度別指導推進教員配置校対象公開授業 1回
- ・全市対象公開授業 1回

3 公開授業における発信内容

- 習熟度別指導が効果的と考えられる単元と工夫
- 習熟の程度に応じた効果的な指導のあり方
- 習熟度別指導実施後の評価のあり方



4 平成28年度の総括と今後の重点的取組

(1) 総括

習熟度別指導推進教員を配置するようになって4年が経過し、この間、習熟度別指導の趣旨や成果を丁寧に説明してきた結果、保護者や児童生徒の理解が得られ、配置校では、年度当初からスムーズに実施できるようになってきました。

本年度は、児童生徒の理解や定着が難しい単元に焦点を当てて、効果的な習熟度別指導のあり方を探ってきました。算数・数学が苦手な子どもたちに対して、スモールステップを踏む授業展開にしたり、つまづきを支援するヒントを用意したりするなどの工夫を試みた結果、児童生徒からは「できた」「わかった」という声が多く聞かれました。また、教師からも「子どものつまづきに応じて、きめ細かい支援ができる」「苦手な子どもにも発言の場を設けることができる」という声が聞かれました。

(2) 今後の重点的取組

引き続き、児童生徒が苦手とする単元における効果的な習熟度別指導のあり方を研究し、広めていきます。

また、効果的なグループ編成の方法や、算数・数学が苦手な子どもたちに活用型学力を育成する指導方法の研究を続けます。

別府市立境川小学校の取組 ～学力向上支援教員（算数）配置校～

1 活用力の捉え・焦点化

活用力を身に付けた子どもの姿とは

- ・課題解決の場面で、これまでに学習してきた知識や技能を生かし、自分の考えを持つことができる子ども
- ・考え方を言葉・数・式・図・表・グラフなどを用いて表現したり、友だちに説明したりできる子ども
- ・新しく得た知識や技能、数学的な見方や考え方を、進んで生活や学習に生かしている子ども

2 重点を置いた取組

(1) 「はてな」から「～したい」を引き出す

- ・子どもが自分から「調べたい」「考えたい」「伝えたい」「聞いてみたい」と、主体的に考えること＝活用力の基盤と考え「子どもの身近なものを教材として取り上げる」「『あれ?』と疑問が生じるような問題提示にする」等、子どもたちから課題が生まれるように工夫をしてきました。

(2) 考えを書き、考えを深めるノートづくり

- ・自分の考えを表現したり整理したり、友だちに考えを伝えるためにも、ノートに書く時間を大事にしています。1時間見開き1ページを基本にして、問題・課題・自分の考え・友達の考え・まとめ・算数日記（振り返り）を書きます。自分の考えには、答えだけではなく、図・式・言葉を関連させて「どのように考えたのか」がわかるように書くことを指導しています。友だちの考えも書くことによって、比べてみたりよさに気づいたり、次に生かすことにもつながっています。また、算数日記で、1時間を振り返ることで理解が深まり、表現力の向上にもなっています。

(3) 「もし～だったら」と考える子どもを育てる

- ・進んで生活や学習に活用していく力をつけるために、1問解決したら終わりではなく、さらに発展した問題にも取り組ませています。そうすることで、自然に「こんな場合は…」「数字や形を変えてみたら…」と自分たちで問題を発展させて考えようとする子どもが増えています。

3 実践例

境川学習スタンダード

1. 時間をきちんと
2. 準備をきちんと
3. 姿勢をきちんと
4. あいさつをきちんと
5. おたがいをきちんと

今年度から「生活のスタンダード」と同様に「学習のスタンダード」をつくり、全校で取り組んでいます。忘れ物をなくし、時間いっぱい授業に集中して取り組む姿勢が、確かな学力につながると考えています。

お互いとは、
話す人
きく人のことです



6年「場合を順序よく整理して」第6時



場合の数の活用問題として、AからBまでの道順が何通りあるのか考えました。

- 1 初めは思いついた道順をかき込みながら試行錯誤しながら考えました。
- 2 このままでは落ちや重なりがわからないという「困り」を共有し、落ちや重なりがないように「簡単に見つける方法はないかな」という課題で考え話し合いました。
- 3 「Aから右・上を固定して考える」「曲がり角で考える」等、並べ方や組み合わせの既習事項を使って考えようとする姿が見られました。

4 成果と課題

【成果】初めは、試行錯誤して考える時間を確保し、自分なりに考えることで、困りを共有し、「もっと簡単な方法はないか」という課題を位置づけました。それにより、子どもが主体的に学ぶ姿が見られました。また、ペアやグループ、全体で話し合う時に、自分の考えと比較しながら聞いたり、わからないことは質問したりして考えを深めることができるようになりました。



【課題】「大事なことは子どもから」引き出せるような、ペアやグループ学習の効果的な取り入れ方や、子どもたちの考えを取り上げ広げていく教師の出番のあり方をこれからも研究していきます。

別府市立緑丘小学校の取組 ～学力向上支援教員（算数）配置校～

1 活用力のとらえ・焦点化

- 見通しをもち、筋道を立てて考える中で、これまでに学んだ内容を思い起こし、それを使って考える力
- 自分の考えの根拠を説明したり、友だちと比べながら聞いたりする中で、新しい知識や技能を身につけることができる力

2 重点を置いた取組

○質の高い課題づくり

子どもからつぶやきを引き出し、考えたいという意欲をもたせ、本気で追究したくなる課題へとつなぐことを考えていきます。

○考えを伝え合う場の工夫

自分のノートテレビに映し出したり、ボードに書いたりして見やすくし、考えを全体で発表させる機会を多く持ちます。また、グループやペアで考えを出し合うことで、表現力を高めます。

○中学校との連携を視野に入れた中部ブロックの統一課題

問題を解くには筋道を立てて考え、それを文章に書ける力が必要です。そのために自分の考えを「図・式・言葉」などで表し、思考の流れが見えるノートづくりをめざします。

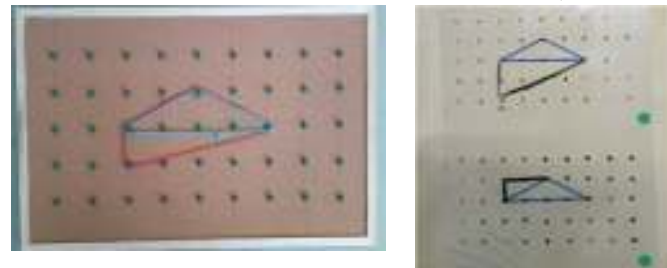
○活用を意識した授業

過去の学力調査の問題を使った授業を行い、それまでに学んだ内容を生かして問題を解く力を養います。また、日常生活とつながりの深い素材を使い、習得した知識や技能が「活用」されることを実感させ意欲をもたせます。

3 実践例 4年生「いろいろな四角形をつくろう」

～残り1頂点の場所を考えることにより、
学習してきた四角形の性質をまとめる授業～

- 児童に問題をわかりやすく提示するために自作ボードを使用。
- ワークシートに自分の考えとその根拠を書かせる。
- 自分の考えを透明シートに書き写したものを持って、友だちと意見交流。



※図形が苦手な傾向があるので、なるべく操作を取り入れるようにしたことは、効果的だった。意見交流のグループは、固定ではなく、同じ考えの人で確かめ合ったり、違う人の考えを聞きに行ったりしたことで、より自主的な学びになった。

4 成果と課題

- できる楽しさや、うれしさだけでなく「難しい問題が出てくるから好き」「みんなで考えて答えをさがしていくのが楽しい」「答えをまようのが、おもしろい」など感じる児童が増えてきています。
- わかったことや学習のポイントなどを進んで書き込み、工夫したノートをつくれるようになってきています。
- 自分の考えがうまく伝わらなかったり、発表する自信がもてなかったりする場面があるので、今後も「表現する力」をつけていく必要があります。

別府市立中部中学校の取組 ～学力向上支援教員（数学）配置校～

1 活用力のとらえ・焦点化

中学校の活用型問題としては、次のようなものが考えられます。

- ・ 三角形の合同や相似などの証明を書く。
- ・ 数や文字式の性質を証明する。
- ・ グラフを見て、分かることやそれを求める方法を書く。
- ・ 数や文字式の性質を予想し、「～は～になる」の形で書く。
- ・ 正しいものを選び、記号で答え、その理由を説明する。

つまり、活用力とは、問題を読み解き、問題解決の見通しをもち、筋道を立てて考え、これまでに学んだ内容を思い起こし、それを使って解決しようとする力と考えます。

具体的には、

課題に対して自分の考えをもち、それを今までに学んださまざまな事象に関連付け、(思考力)

他の人の考えと比較しながら、明確な根拠をもって判断し、(判断力)

数学用語や、表、グラフ、式などを利用して、説明したり、考えを出したりしながら、(表現力)

問題解決に向かう力であるにとらえます。

2 重点を置いた取組

問題解決的な学習の中で、活動から解決に導いたり、活動によって検証したりする授業を行っています。

教科書に限らず、生徒の生活の中から素材を探して課題を作成し、生徒が興味・関心を持てる教材の工夫に取り組んでいます。

3 実践例

○グラフから導入する放物線の授業

ダイアグラムに代表される1次関数が一定の割合で変化するのに対して、関数 $y = ax^2$ は、変化の割合が変化する関数です。教科書では式の形から導入し、 x の値に対する y の値の変化を「 y が x の2乗に比例する」と表現することで $y = ax^2$ を理解しようとしています。この方法は数学的には正しいのですが、生徒にとってはイメージしにくく、関数に対する苦手意識を持たせる原因になります。

そこで、2年次に学習したダイアグラムと同じように、生徒にとって取り組みやすいグラフから入ることで、「 y が x の2乗に比例する」関数のグラフや式の意味や考え方に迫らせました。導入として、身近な放物線である、物体を投げたときに描く線を見せることから授業に入りました。物を投げた様子をグラフに放物線として書き、 x 、 y の値の組を読み取ることで、 $y = ax^2$ の関係に気が付くという順番にしました。そして、ダイアグラムのように、駅を出発した電車と隣の線路を一定の速さで走る電車をグラフに表すことで、「平均の速さ＝変化の割合」であることや、「追いつく地点や時刻＝交点の座標」であることも続けて学習しました。この順番で授業することにより、生徒には関数 $y = ax^2$ の意味が比較的容易に理解できたと思います。

4 成果と課題

実験的活動や少人数で話し合う活動を多く行くと、生徒は興味・関心を持って課題に取り組みます。また、長い文書を読んで考えることにも抵抗が少なくなったように感じます。しかし、考えたことを書いたり、思考過程を書いたりすることには、まだ苦手な生徒が多いのが課題です。

別府市立朝日小学校の取組 ～学力向上支援教員（国語）配置校～

1 活用力のとらえ・焦点化

全国学力・学習状況調査B問題の校区の児童生徒の正答率の分析

共通の課題

資料を読み取り言語化する力
読み取った内容について自分の考えをもち表現する力

単元を貫く言語活動の設定

授業
実践

「書く」ために「読む」
「読む」ために「書く」

目的に応じて読み、自分の考えを深めて適切に表現する力

2 重点を置いた取組

①3校担当者の話し合いの場の設定

- ・年度当初に3校共通の取組を設定
- ・共通課題解決に向けた授業実践について話し合う場の設定
3校持ち回り 月1回程度
ブロック会議または連携会議
指導案審議等実践的課題を持ち寄る

②ねらいが明確で質の高い「課題」と適切な「まとめ」がある授業の推進

③「課題解決的な言語活動」を設定した単元展開の工夫

④小グループ活動を取り入れた授業展開の工夫

⑤「書く」ことを取り入れた授業展開の工夫

⑥生徒指導の三機能を生かした授業

- ・グループ活動やペアワークなどによる人間関係づくり
- ・自己肯定感、自尊感情を高めるような「ほめる」声かけ

3 実践例 小学校5年生

①「楽しい！おじか新聞を書こう ～4年生に紹介しよう～（読む）」

「おじか合宿に初めて行く四年生に、自分の体験した中でとっておきのことを紹介する新聞を書く」ことを言語活動として取り組んだ。新聞記事の見出し・リード・写真・本文などに着目させることで、新聞記事の構成をとらえさせ、読み手を意識した表現や構成の工夫をして新聞を書くことができた。

②「人物紹介パンフレットで生き方について考えよう（読む）」

伝記を読んでいちばん心惹かれた人物の功績やそれに関わる略歴、自分の生き方につなげたい考えなどをパンフレットにまとめる活動に取り組んだ。手塚治虫の生き方に触れ、心に響いた理由を考えることで、自分自身のことを見つめ直す機会にもなった。

③「伝えようクラブ活動 ～3年生に紹介しよう～（書く）」

『伝えよう委員会活動』の学習をした後、クラブ見学を行う3年生に自分の経験を振り返り、必要な情報を整理してパンフレットで紹介するという活動に取り組んだ。

4 成果と課題

【成果】

- ・単元を貫く言語活動を仕組むことで、見通しを持って学習活動に取り組むことができた。
- ・ブロックの協議会を持つことによって、小中それぞれの授業の内容分析や教材研究を様々な角度から見ることができ、より共通理解が深まった。

【課題】

- ・今年度は、国語部会での提案授業者の授業構想から学習展開までサポートを行い、実践を広げていくことができたが、まだ十分とは言えない状況であった。今後も実践を広げていくための取り組みの工夫をしていく必要性を感じた。

別府市立大平山小学校の取組 ～学力向上支援教員（国語）配置校～

1 活用力のとらえ・焦点化

全国学力・学習状況調査B問題の校区の児童生徒の正答率の分析

共通の課題

資料を読み取り言語化する力
読み取った内容について自分の考えをもち表現する力

単元を貫く言語活動の設定

授
業
実
践

「書く」ために「読む」
「読む」ために「書く」

目的に応じて読み、自分の考えを深めて適切に表現する力

2 重点を置いた取組

①3校担当者の話し合いの場の設定

- ・年度当初に3校共通の取組を設定
- ・共通課題解決に向けた授業実践について話し合う場の設定
3校持ち回り 月1回程度
ブロック会議または連携会議
指導案審議等実践的課題を持ち寄る

②ねらいが明確で質の高い「課題」と適切な「まとめ」がある授業の推進

③「課題解決的な言語活動」を設定した単元展開の工夫

④小グループ活動を取り入れた授業展開の工夫

⑤「書く」ことを取り入れた授業展開の工夫

⑥生徒指導の三機能を生かした授業

- ・グループ活動やペアワークなどによる人間関係づくり
- ・自己肯定感、自尊感情を高めるような「ほめる」声かけ

3 実践例 小学校5・6年生

①「物語のおもしろさをリーフレットで友だちに紹介しよう。（読む）」

『世界でいちばんやかましい音』を読み、リーフレットに始まりの場面、山場まで、山場、終わりの場面において物語の構成がわかりやすいように出来事をまとめさせた。そして、おすすめのところとその理由を書いて紹介した。その後、自分の選んだ本で同じようにリーフレットを作った。

②「受けつがれてきた和の文化を調べて、留学生に説明しよう（話す・聞く）」

班ごとに説明したい和の文化を決め、「はじめ、観点①、②、③、終わり」と発表原稿を分担して作った。留学生に和の文化を説明するという相手意識を持たせたことで、子どもたちの意欲が高まり、留学生に分かりやすいように、音声の工夫、写真・実物の用意などが見られた。

③「自分のめざすプロフェッショナルについて発表しよう。」（書く、話す聞く）

「プロフェッショナルたち」を学習し、自分のめざすプロフェッショナルとは、どんな人か、将来の夢、夢に向けてどのように生きたいかを書かせ、クラスで発表させた。

4 成果と課題

【成果】

- ・目的と相手意識をきちんと持たせた言語活動を仕組むことで、児童が学習意欲を持続させ、自分なりに工夫をしながら最後まで取り組むことができた。
- ・ICT機器を活用し資料や写真などを提示して学習を進めることで、児童の興味を引き付けたり、理解をより深めたりすることができた。
- ・学級担任とともに教材研究をし、T2として授業をすることで、より子ども目線でT1の発言や発問を聞き、良い点や改善点を考えることができた。

【課題】

- ・国語の学習で身に付けた力を他の教科でも活用できるよう意識づけたり、補充学習をしたりすること。
- ・どんな力がつくのかを子どもに意識させて学習に取り組みさせること。
- ・考えを交流する場でお互いにアドバイスができるようさせること。

別府市立朝日中学校の取組 ～学力向上支援教員（国語）配置校～

1 活用力のとらえ・焦点化

全国学力・学習状況調査B問題の校区の児童生徒の正答率の分析

共通の課題

資料を読み取り言語化する力
読み取った内容について自分の考えをもち表現する力

単元を貫く言語活動の設定

授
業
実
践

「書く」ために「読む」
「読む」ために「書く」

目的に応じて読み、自分の考えを深めて適切に表現する力

2 重点を置いた取組

①3校担当者の話し合いの場の設定

- ・年度当初に3校共通の取組を設定
- ・共通課題解決に向けた授業実践について話し合う場の設定
3校持ち回り 月1回程度
ブロック会議または連携会議
指導案審議等実践的課題を持ち寄る

②ねらいが明確で質の高い「課題」と適切な「まとめ」がある授業の推進

③「課題解決的な言語活動」を設定した単元展開の工夫

④小グループ活動を取り入れた授業展開の工夫

⑤「書く」ことを取り入れた授業展開の工夫

⑥生徒指導の三機能を生かした授業

- ・グループ活動やペアワークなどによる人間関係づくり
- ・自己肯定感、自尊感情を高めるような「ほめる」声かけ

3 実践例 中学校2年生…①②、中学校1年生…③

①「体育大会を来年へとつなげよう～朝中体育大会説明書づくり（書く）」

わかりやすく伝えるためのスキルを学ぶ学習として位置付け、来年の新1年生に向けて、朝中の体育大会に説明するものを書きまとめる言語活動に取り組んだ。文章展開に着目して、図表を取り入れた説明的文章を読み、その手法を取り入れながら書き進めることができた。

②「現代版徒然草をつくろう～教訓をまとめる（読む）」

今と昔の「ちがひ」と「同じ」に注目し、時代は変われども今につながる考え方を当時の人も持っていたことを知り、古典の持つ面白さを味わうことに取り組んだ。そして自らの経験を振り返り、教訓を書きまとめることを行った。

③「環境問題に対して提言しよう（読む）」

文章全体の構成をとらえる力と段落の中心的な部分と付加的な部分として読み分ける力を高める活動に取り組んだ。筆者の主張をとらえることで、自分なりに考える環境問題への取り組みやプランを提言するという形で書きまとめた。

4 成果と課題

【成果】

- ・提案授業だけでなく、日常の授業の中から「課題」と「まとめ」を意識した授業づくりと実践に取り組んだ。1時間の中で「何を学ばせるか」「何を身につけさせるか」がはっきりとさせることができ、校内にも影響を与えることができた。
- ・ブロック内の小学校と連携をすることで、共通課題を見出し、単年度で終わらない長期的な授業改善の方向性が見出されてきた。

【課題】

- ・授業づくりを校内やブロックだけにとどめず、市内国語科を含めて、意見交流しながらできるようになるとよい。そこから、全市で学力向上に向けた授業改善の話し合いが広がると思われる。

別府市立石垣小学校の取組 ～習熟度別指導推進教員（算数）配置校～

1 取り組む際に重視したこと

○算数を苦手とする子どもへの指導法の工夫と意識づけ

- ・「数と計算」や「割合」「単位量」など理解に差が見られやすい領域や単元、定着しにくい内容の指導法を工夫したり、意識づけになるようなネーミングを提案したりした。
- ・自分にもできる、わかったという自信と意欲をもたせる場をつくる
- ・自ら解決していく中で、「はてな?」「わかりたい」「できるようになりたい」という思いを大切にする。

○文章題への取り組みませ方・ヒントになる絵や図のかき方の指導

○実際に測定したり、量を感じたりできる算数的活動の場の保障

○1時間の学習内容がわかる板書の工夫

- ・<課題>と<まとめ>が位置づけられ、授業の展開がわかる板書の工夫

2 習熟度別指導の方法

○領域（単元）ごとに指導形態を変える

- ・5年3クラス

「数と計算」「数量関係」・・・習熟度別指導を原則にする。（8～13人）

「量と測定」「図形」・・・少人数指導を原則にする。（12～14人）

単元の導入部分は一斉で行い、担任（T2）に支援してもらう

- ・4年2クラス・・・主に単元のまとめで教室内（前と後ろ）で習熟度別に

※単元前にレディネステストを行い、その結果と本人の希望、担任との協議で、単元ごとに編成した

○習熟度別指導による指導の違い

- ・ぐんぐんコース・・・子ども同士での解決をめざし、言語活動を充実させたり、発展的な問題に取り組ませたりする。
- ・じっくりコース・・・視覚的にとらえやすい教材や具体物での算数的活動を多く取り入れたり、計算を簡単にしたりして「できる」喜びを意欲につなげた。

3 実践例

5年「さしひいて考えて」

5年「何倍になるか考えて」（割合）

文章題。まずは4年の復習から入り、苦手な子どもも考えやすく。

20%引きのおかしはいくらになるか線分図で考えてみような？



ぐんぐんコース



じっくりコース

4 成果と課題

○少人数であることで、子どもたちが落ち着いた雰囲気での学習に取り組め、困りや思いを安心して明らかにすることができた。

○授業での一人ひとりの活躍の場が増え、意欲につながった。

○「サーティワンの法則」「サンドイッチの法則」「ゾンビの法則」など子どもといっしょにネーミングを考えて、意識づけることができた。

○苦手意識の強い「割合」などは、線分図や比例式をスモールステップで指導することで、抵抗感を減らすことができた。

○ワークシート、ヒントカード、可視化や体感化できる教材・教具など、子どもたちの実態や思考に合ったものを準備できた。

○4年、5年の系統性から指導が必要なポイントを担任と交流できた。

○子どもの実態にあった宿題を工夫して作成できた。

▲テストのやり直し・個別指導の時間確保が難しかった。

別府市立鶴見小学校の取組 ～習熟度別指導推進教員（算数）配置校～

1 取り組む際に重視したこと

- 単元（内容）ごとに児童の習熟度を把握し、習熟の程度に合わせて、効果的な少人数編成や指導方法等を工夫する。
- 児童が苦手とする内容（図形の作図、文章題）の授業公開を行い、構想や工夫について情報を提供する。
- 算数が苦手な児童への底上げ、算数が得意な児童の一層の引き上げにつながる取り組みをする。（計算力を伸ばす取り組みなど）

2 習熟度別指導の方法

- 基本的には、単元（内容）ごとに習熟度を把握して編成したり、一斉（TT）指導の後、単元を進める途中で分かれたりして、指導形態を変える。習熟の程度によっては、単元の「まとめ」では一斉指導を取り入れた後、児童の習熟に応じた指導を実施した。
- 単元前に「じゅんぴテスト」を行い、その結果と本人の希望、担任との協議で、単元ごとに編成した。
 - ・ 3年2クラス じっくり（かめ）コース どんどん（うさぎ）コース
 - ・ 4年2クラス じっくり（チョコ）コース どんどん（アイス）コース

【じっくりコース】

- ・教科書の内容を確実に理解するよう、授業を進めるコース（約3分の1の人数）。個別の指導が増えるようにより少ない人数で授業を進める配慮をする。

【どんどんコース】

- ・学習内容の理解をさらに深めるよう、理由等を説明する活動や発展的な問題に取り組ませたりするコース（約3分の2の人数）。

3 実践例

- 『学び合い』（西川純提唱）～「一人も見捨てない」「全員が達成する」を合い言葉に～
- 3年 あまりのあるわり算、まとまりを考えて（文章題）
苦手とする要因・・・ 問題文の意味と式を結びつけられない。
講じた工夫 ・・・ 絵や図にかき表したり、動作化したりする。
- 4年 ひし形の作図
苦手とする要因・・・ 作図をかく量が少ない。→ 増やす必要がある。
講じた工夫 ・・・ 教具を用いる。→ 視覚的にとらえられた。

ワークシートやホワイトボードに考えを書き、説明し合う活動



4 成果と課題

【成果】

- ・習熟度別指導を受けた3年生・4年生は、今年度実施した別府市学力調査の算数において、全国平均値を上回った。
- ・アンケートでは、「進んで算数の学習に取り組む」児童が、3年生・4年生ともに9割以上、肯定的な回答である。意欲的に学習に取り組んでいる。
- ・児童の実態や思考に合わせた、教具・実物・模型・授業のポイントとなる掲示物を用いること等で、一人ひとりの児童に細かい指導・支援をすることができた。

【課題】

- ・算数が苦手な児童に対し、基礎内容のさらなる確実な定着を図る指導が課題である。

別府市立春木川小学校の取組 ～習熟度別指導推進教員（算数）配置校～

1 取り組む際に重視したこと

- 「わかった」「楽しい」を実感できる授業の工夫
 - ・前時の学習事項の振り返り
 - ・数値を簡単にしたものにして思考しやすくする
 - ・問題の内容をしっかりと把握させる
- 実際に測定したり、量を感じたりできる場の保障
 - ・面積・・・ 1 m^2 や 1 a の面積を実際を書く。
 - ・何倍でしょう・・・三色の付箋テープを使って2倍の3倍が6倍になることを理解していった。
- ヒントになる図の書き方（線分図・関係図等）を繰り返し指導
- 「まとめ」は、なるべく子どもの発したことを用いて板書に位置付けるようにした。

2 習熟度別指導の方法

- 4年2クラス、5年2クラス、6年1クラスで、指導推進教員と学級担任の2人の教師で実施してきた。
- 授業の進度を合わせて効果的に運営するために単元によって編成した。
 - *単元前にプレテストを行う。
 - *「チャレンジコース」「じっくりコース」は、子どもたちの希望もとった。
 - *必要に応じて教師が意図した人員でグループ編成した。
- 習熟度別による指導の違い
 - ・チャレンジコース（問題解決までの過程に主体性を持たせる展開）
ペア学習やグループ学習で子ども同士で課題解決をする。
 - ・じっくりコース（数値を簡単にして解き方の理解に重点をおく展開）
個別支援の機会をより多く設け、基礎的・基本的な内容の理解をする。

3 実践例

<4年・何倍でしょう>

三色の付箋テープを使ったので、2倍の3倍が6倍と分かりやすかった。



<4年・面積>

L字型の面積も、切ったり、はったりすることで、「縦切り、横切り」にして長方形を作ると求められることが分かった。



4 成果と課題

【成果】

- ・習熟度別少人数指導によって質問や発言しやすい雰囲気ができ、意欲的に授業に取り組む子どもが増えた。
- ・線分図や関係図を書きながら、スモールステップで指導することで、抵抗感を減らすことができた。
- ・子どもの希望も取り入れながらコース分けをしたことで、意欲を持って取り組むことができた。

【課題】

- ・テストのやり直しや個別指導の時間の確保が難しかった。
- ・学習内容の理解度をもっと定期的に評価し、子どものつまずきを早めに把握して対応する必要があった。
- ・学級担任との打ち合わせの時間の確保ができなかった。

別府市立青山中学校の取組 ～習熟度別指導推進教員（数学）配置校～

1 取り組む際に重視したこと

- 数学の学習において習熟度別少人数指導を行い、効果的な少人数指導の効果的なコース選択の方法。
- 習熟度別少人数指導が効果的であると考えられる授業方法。
- 週末課題の出題方法。

2 習熟度別指導の方法

本校は、1年生5クラス、2年生4クラス、3年生5クラス、特別支援学級2クラスの全校460名の中規模校である。昨年度は3年生で習熟度別少人数指導を行っており、今年度は1年生と2年生で実施した。

1年生は、29～30名の学級編成であり、コース分けについては、5月まで男女均等割で授業を進め、6月から年間を通じて習熟度別指導を行った。2年生は、35～36名の学級編成であり、5月より年間を通じて行った。当初は、両学年とも保護者と生徒の相談によりコースを決めさせた。コースは、標準コースと基本コースの2つである。コース編成の祭に、基本コースをなるべく少なくすることで、数学が苦手な生徒に細かく指導できるようにした。基本コースは、1年生はほぼ15名程度、2年生は12～15名程度とした。

コース変更については、定期テスト前に授業進度を揃えたので、テスト後にコース変更希望者を募り、1～2名が変更した。

3 実践例

各コースともペア学習を取り入れ、難しい問題等では互いに相談しやすい座席で授業を行った。標準コースでは、各単元とも発展的な問題に取り組みさせた。また図形分野では、書画カメラを使って生徒の解いた図をそのまま拡大し、説明をさせた。

週末課題は、表面は2年生で習った範囲の復習、裏面は、1、2年生の範囲の入試問題を基本コース(計算問題中心)と標準コース(いろいろな分野の応用問題)に分け、基本コースの生徒には基本コースの問題、標準コースの生徒には、両方解かせることで応用力をつけさせようとした。

4 成果と課題

成果としては、習熟度別少人数指導を行うことで、質問や生徒同士の教え合いができ、積極的に授業に取り組む生徒がさらに増え、学力も向上したと考える。

1月に行われた別府市学力調査では、「基礎」で市平均より7.8ポイント、「活用」で市平均より5.5ポイント上回っている。特に習熟度別指導の効果が現れたと考える単元としては、「連立方程式の利用」「一次関数の利用」「平行と合同」(特に証明)で、標準コースではじっくりと取り組めた。

課題としては、定期テスト前には各コースの進度を揃えたものの、基本コースでは、ていねいに個別指導を行ったため授業進度がずれていくことである。

別府市立鶴見台中学校の取組 ～習熟度別指導推進教員（数学）配置校～

1 取り組む際に重視したこと

○習熟度別少人数指導の効果的な編成について

- ・3年生4クラスで実施した。
- ・年度当初にコース編成希望調査を実施
初めての習熟度別授業に向けて不安がないように、目的やコース選択の目安を具体的に示し、生徒・保護者に丁寧な説明をした。
- ・コース変更の希望調査は学期ごとにおこなった。

○習熟度別少人数指導における効果的な学習環境について

- ・「基礎コース」の生徒の力をつけること、困りについてきめ細やかに対応することを重視するため、生徒数は上限16名とした。
- ・4人に1枚ホワイトボードを常備し、話し合い活動に利用した。
- ・少人数教室の環境整備
机配置や教室掲示の工夫 自由に操作できる教具・練習問題を配置
昼休みも自由に学習、質問できる教室とした。

2 習熟度別指導の方法

- ・習熟度に応じた問題を解決する手立てを工夫した授業の実践。
- ・ペア・グループ活動を中心とした授業を構成し、実施した。
- ・コースごとのワークシート、振り返りシートを活用
- ・「基礎コース」は視覚的な工夫や、操作的な活動ができる教具を準備
- ・「標準コース」は単元ごとに発展的な課題を準備
- ・公正な評価のために、評価のためのテストは同じものを実施した。

3 実践例

「定着の難しい単元」における習熟度別授業の効果的な活用について授業展開を考え3回授業公開した。授業案や生徒の記録について保管している。

6月：平方根の利用

<めあて>正方形と円のまわりの長さを比べよう

<課題>無理数の大小はどんな方法で比べればよいか

10月：関数 $y = ax^2$ の利用

<めあて>1次関数と関数 $y = ax^2$ のグラフの交点と原点を結ぶ三角形の面積を求めよう

<課題>底辺・高さのわからない三角形の面積はどうやって求めるか

1月：三平方の定理 空間図形への利用

<めあて>ぴんとはったひもの長さを求めよう

<課題>展開図の中に直角三角形を見つけるには



4 成果と課題

- ・習熟度別少人数は、安心して生徒が一人一人の困りを出せる環境であった。課題に向かうアプローチや、困りに対してきめ細やかに個に応じた指導ができるので、数学の授業において効果的であった。
- ・少人数での学習をもっと早くから取り組んでほしかったという要望が多かった。2年生と3年生で取り組むことができれば、と考えている。